朝鮮の
国家象徴

朝鮮民主主義人民共和国
チュチェ108(2019)

朝鮮の国家象徴

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
チュチェ108(2019)

目　次

1. 国　　号

国号は一般的に国家の形態を反映する。

国号を通して、その国の人々の志向と念願、それに歴史的伝統、社会政治的性格を知ることができる。

前30世紀初に檀君(タングン)が建てた朝鮮最初の古代国家である「朝鮮」（中世に存在した「朝鮮」と区別して「古朝鮮」という）という国号は、朝鮮の歴史に初めて登場したものであった。

学界では、檀君が実在の人物であったという歴史的事実に基づき、「朝鮮」という国号には「日が昇る東方の国」という意味がこめられていることを解明した。

前３世紀初に、朝鮮では奴隷制国家に代わって最初の封建国家である高句麗(コグリョ)が出現した。前277年から668年まで存在した高句麗は百済(ペクチェ)、新羅(シンラ)とともに三国をなした。

高句麗は三国のうちで最も早く成立した封建国家であり、政治、経済、文化など各分野で急速な発展を遂げて東方の強国として名を馳せた。

「高句麗」という国号は朝鮮最初の統一国家である「高麗」の名に継承されて世界に一層広く知られるようになった。

10世紀初から14世紀末まで存在した高麗は、経済と文化が発展するにつれて、西アジアとヨー

ロッパにまでその国名が知られはじめた。
　500年近く存続した高麗王朝は1392年に滅亡し、新王朝が成立した。
　朝鮮封建王朝の樹立によって大きな社会的変革が起こったが、新王朝は国号問題において即時に改定案を提起せず、以前の国号「高麗」を引き続き使うことにした。
　同年11月、新王朝はその基盤をある程度固めてから国号改定問題を提起し、新しい国号を「朝鮮」とし、翌年の２月に正式に国名を「朝鮮」と宣布した。
　1897年、朝鮮封建王朝政府は1392年以来使われてきた「朝鮮」の代わりに「大韓帝国」という国号を制定して内外に宣布した。
　500余年間存続して一度も変えたことがなかった国号を、新王朝が樹立された時でもないその時に変えざるをえなかったのは、19世紀の末に朝鮮で封建制度の崩壊過程が速まって封建的統治秩序が乱れに乱れたうえに、朝鮮を植民地化しようとする帝国主義列強の植民地争奪戦が熾烈に繰り広げられ、国の自主権が踏みにじられたからであった。
　封建支配層が主張した「大韓帝国」という国号には、「歴史的必然性」というよりも、隣国のまねをしようとする彼らの事大主義的立場が反映されていた。

封建支配層は新たに制定した国号に大きな希望と期待を託したが、それはただの衣替えにすぎなかったのであり、封建国家は衰退の一途をたどり、日本帝国主義の植民地となって国名さえ奪われてしまった。

朝鮮の解放後の1948年８月初め、北朝鮮労働党中央委員会常務委員会では共和国の創建に関連して国号問題が討議された。

会議では、国号を「朝鮮民主主義人民共和国」とすべきだという案が出された。

1948年９月９日、朝鮮民主主義人民共和国が創建されることによって、朝鮮人民は初めて尊厳ある誇るべき国号をもつことになった。

朝鮮民主主義人民共和国という国号には深い意味がこめられている。

まず「朝鮮」を見ると、前述したように、朝鮮の歴史には朝鮮（古朝鮮）、朝鮮封建王朝など、「朝鮮」という名称をもち、血縁的・政治的継承関係を主張した国が少なからず存在した。

しかし、以前の「朝鮮」という国号自体は自然的な概念にすぎなかった。

新しい国号の「朝鮮」という名には、人民が国の主人となって、国のすべての問題を自分の力で解決していく新しい朝鮮という意味がこめられている。

国　号

「民主主義」という表現には、自由と幸福を願う朝鮮人民の念願と、まだ国が統一されていない現実、朝鮮革命の当面の任務と根本目的が反映されている。

「人民」という表現には、人民が国家と社会の主人となり、すべてのものが人民のために奉仕するという意味がこめられている。

「民主主義人民共和国」という表現には朝鮮の国家形態が集大成されている。

これは、国家の最高権力を労働者、農民をはじめ各階層の広範な人民大衆の意思を代表する代議制機関に集中させ、すべての国家権力を徹底的に民主主義的方式によって実現できるようにする国家建設形態であり、これには、労働者階級と農民をはじめ各階層の広範な人民大衆を国家の真の主人にし、国家を広範な勤労者大衆のために奉仕する民主主義国家として建設するという意味がこめられている。

朝鮮民主主義人民共和国は、各階層の人民に政治的自由と権利を保障するだけでなく、幸福な物質・文化生活を保障する真の人民の国家である。

2. 国　章

朝鮮民主主義人民共和国国章

国　章

国章は、家門、組織、団体、会社、商店、都市、大学などの系譜や権威を象徴するしるしである紋章に由来するといわれている。

国章は、国家の自主権と尊厳の象徴的しるしである。したがって、国章の図案と色は国と民族を象徴するしるしとしての意味をもち、その国家の政治的意志を反映している。

朝鮮民主主義人民共和国の国章は、「朝鮮民主主義人民共和国」と記した赤い帯をまいた稲穂の楕円形の枠の中に壮大な水力発電所を配し、その上に朝鮮民族の祖宗の山―白頭（ペクトゥ）山と、燦然と輝く赤い五角の星を配している。

国章は、白頭山によって、共和国が抗日革命闘争の革命伝統を継承していることを象徴的に示している。

また、赫々たる光を放つ五角の星によって、力強く前進する朝鮮の明るい未来を象徴している。

国章は、稲穂をまいている赤い帯とその上に記されている国号によって、共和国の不敗の威力を象徴している。

稲穂をまいている赤い帯は、朝鮮人民の不抜の統一団結の永遠性を象徴している。

国章は、水力発電所と稲穂によって、繁栄する富強な自主独立国家の未来を象徴している。

国章の真ん中に配された水力発電所は、強力な重工業に依拠する自立的かつ近代的な工業を象徴しており、日ごとに繁栄する朝鮮の未来への確信を抱かせている。

稲穂は、将来近代化される朝鮮の社会主義農業の明るい展望を象徴している。

国章は、構図と色彩によっても、共和国の不敗の威力と繁栄する未来をよく示している。

昔から、人々は何かの永遠性について語る時、その不変の軌道に沿って運動する天体の存在と運動にたとえたものであり、そのため、太陽の周りを回る惑星の軌道を意味する楕円形は永遠性の象徴とされてきた。

朝鮮の国章は楕円形である。

国章の主な色は赤、青、白、黄、栗色、土色、緑色であり、一部の色はこれらの色にほかの色を加えたものである。

3. 国　旗

世界には、200余の国と地域を象徴する国旗と地域旗がある。

国旗は、対外的に国家の自主権を公式的に表現し、国内では国家的な祝日や重要な行事の際に掲揚し、国家の象徴的な建物に日常的に掲揚する。

国際競技大会で優勝した国家代表チームや選手たちに賞を授与するときにも、その国の国歌が演奏され、国旗を丁重に掲揚するのが慣例となっている。

国旗は色と図案によってその国を象徴化したものであり、色や構図、象徴物の性格によって分類することができる。

世界には色とりどりの国旗があるが、主として赤、青、緑、黄、白、黒を使っている。

色の選択と色に対する感情は国と民族によって異なる。

赤は昔から喜びと勝利の象徴とされている。

緑は多くの場合、農業や山林、植物を表わし、希望や信念の象徴ともなる。

青は海や河川、湖、港、空などを象徴する。

黄は一般的に日光や富を象徴する。

国　旗

朝鮮民主主義人民共和国国旗

世界の国旗の中には、さまざまな図案や色によって民族的特徴や地理的特徴を反映した国旗もある。

一部の国では、国旗に自国を象徴する国花や国樹、国鳥、その他の図案を配して国家の意志とともに、その国の民族性や地理的特性を表現している。

朝鮮民主主義人民共和国の国旗は、旗の中央に幅の広い赤地があり、その上下に細い白地、さらに青地があり、赤地の旗竿寄りの白い円の中に赤い五角の星がある。

朝鮮民主主義人民共和国の国旗は、自主的で尊厳ある朝鮮の象徴である。

共和国の国旗の赤色はまず、祖国の自由と独立のために命を捧げた烈士たちの血潮を象徴している。

それはまた、一心団結した朝鮮人民の必勝不敗の革命力量を象徴している。

国旗の白色は、朝鮮民族の単一性と燦然たる文化を象徴している。

朝鮮人民は昔から清廉潔白、純潔、端正を象徴する白色をとりわけ好み、そのため朝鮮人民の風習と生活の中に白色は深く染み込むようになった。

国旗の青色は、社会主義偉業の勝利を目指して奮闘する朝鮮人民の気迫と世界平和と進歩を志向する精神を象徴している。

国旗の赤い五角の星は、共和国が継承している革命伝統と朝鮮人民の革命的気概、星のように永遠に光を放って繁栄する共和国の明るい未来を象徴化したものである。

共和国の国旗は、構図においても自主的人民の高い民族の尊厳と気概を示している。

縦横の比が１対２、すなわち横長の長方形に、幅の広い赤地を中心として、その上下に細い白地と青地を対称的に長く直線で配する

ことにより、丁重かつ厳かな視覚的感覚を与えている。

特に、白い円の中の赤い五角の星を赤地の旗竿寄りに配することにより、後ろの部分から押さえつける感覚と緊張感をなくし、果てしない空間の中でひらひらと翻っている感じを与えている。

4. 国　歌

愛　国　歌

アンダンテ、荘厳に
作詞 朴世永 作曲 金元均
1. あ さ はかがやけ だ いちこが
ね のめ ぐ み あ ふれさん ぜん りうるわし
そ こく ご せん ねんのれきし と きら
め くぶんかそ だ てしじん みんのこのー え いこうすー
べ てさ さ げ こ のち と わ にまーもら
ん きら め くぶん かそ だ てしじん
みん のこのー え いこう すー べ てさ さげ
こ のち と わ にまーもら ん

愛　国　歌

1　朝は輝け　大地　黄金のめぐみ　あふれ
三千里うるわし祖国　五千年の歴史と
きらめく文化　そだてし　人民のこの栄光
すべて捧げ　この地とわに守らん
きらめく文化　そだてし　人民のこの栄光
すべて捧げ　この地とわに守らん

2　白頭の精気を継げる　勤労の聖なる気性
真理で　固めしこころ　世界に　さきがけん
怒濤もおしわけ　人民の樹てし国ぞ
富あふれるこの地　とわに栄えよ
怒濤もおしわけ　人民の樹てし国ぞ
富あふれるこの地　とわに栄えよ

国歌は、国章、国旗とともに、その国を象徴する一つの標柱のようなものと見なされる。

一国の尊厳と民族の気概、栄誉を象徴する国歌には、その国の社会的・階級的・政治的理念と性格などが反映される。

国家間の儀礼的行事の際にも、両国の国旗を掲揚して国歌を奏するのを原則としている。

国　歌

オリンピックをはじめ国際的競技で金メダルを獲得した選手が表彰台に上がると、その選手が属する国の国旗が掲揚され、国歌が奏される。

朝鮮の国歌は『愛国歌』である。

解放後、国歌の創作は全国のすべての作家、作曲家と全勤労者が参加する大衆的な愛国運動として力強く繰り広げられた。

その結果、300余りの国歌の歌詞がつくられて審議に付された。

審査の結果、1947年５月初旬、詩人朴世永(パクセヨン)作の歌詞が新しい国歌の歌詞の原案として選ばれた。そして、その歌詞に合わせて多くの曲がつくられ、そのうちで金元均(キムウォンギュン)作の曲が当選した。

『愛国歌』の特徴は、頌歌の格調にふさわしく歌詞の主題思想の内容が非常に深遠なことである。

歌詞は簡潔な詩句の中に、朝鮮の美しい自然や悠久の歴史と伝統、朝鮮人民の崇高な祖国愛を幅広く、深く盛り込んでいる。

まず１節の歌詞では、5000年の悠久の歴史と燦然たる民族文化、豊かな資源をもつ三千里錦繍江山である美しい朝鮮で幸福に暮らす人民の限りない光栄と誇りについて、洗練された詩的形象によって深く、重みがありながらも格調高く歌い上げている。

また、昔から朝日の昇る国と呼ばれている朝

鮮に生を享けた限りない民族的誇りに胸を膨らませる人民の思想・感情を、「朝は輝け　大地」という句によってよく表わしている。

歌は、朝鮮人民が胸に秘めている民族的誇りと自負を、「五千年の歴史」と「きらめく文化そだてし」という重みと深みのある詩語によって力強く表現している。

そして、「すべて捧げ　この地とわに守らん」という詩語によって、三千里錦の山河を愛国の一心をもって代を継いでとわに輝かせていこうと強調している。

２節の歌詞では、抗日の革命伝統と、朝鮮人民の団結力、強い革命精神と無限の想像力があるがゆえに、朝鮮は強大で富強な自主独立国家として世界に光を放つであろうという強い確信と、朝鮮を永遠に人民の国、チュチェの強国として発展させていくという固い信念と意志を力強く表現している。

5. 国　　語

言語は民族を特徴づける基本的表徴の一つであり、民族問題や国家的な問題、人間生活と密接な関係をもつ。

国語は国家の階級的性格と理念により国家が公式に制定し、国家はすべての政策、決定、法令などの制定と公表、新聞、雑誌、図書、放送などの出版・報道手段、学校教育、科学・文化活動、対外活動などで国語を正確かつ統一的に使うよう規範化する。

多民族国家においては国語を公用語または国家語という。

世界には朝鮮のような単一民族国家は少なく、大多数は多民族国家であるので、公用語を使う国が大部分であり、二つ以上の言語を公用語としている国もある。

単一民族国家においては国語と民族語は原則的には同じであるが、多くの面で相異なる特性をもっている。

民族語は、民族の形成とともに形成された言語であり、民族が存在する全期間にわたって民族と運命を共にする人間言語の基本形態である。しかし国語は、国家の階級的利益と要求、時代の変化に応じて言語政策を講じ、それに従って民族語を整理、規範化した言語である。

国　語

現在、世界には200余の国があり、60余の国語（または公用語）と6000余の民族語がある。これは、三つ以上の国が国家語として一つの言語を共に使っていることを意味する。

朝鮮は民族も言語も一つである。

朝鮮語の基準は平壌(ピョンヤン)文化語である。

平壌文化語は、言語体系と構造が発達し、美しく洗練された言語である。

平壌文化語の発音は、なめらかで、高低と長短があり、抑揚もすぐれ、耳に非常に美しく響く。

朝鮮語の語彙表現は多様かつ豊富であり、どんなに難解で複雑な思想や繊細な感情・情緒でもよく表わすことができ、人々を感動させることも、笑わせることも、泣かせることもできる。

朝鮮語の文法構造は典型的な膠着語としての特性をもっている。

平壌文化語の文法構造と文章構成は朝鮮語の〝토〟（助詞）によって表現される。朝鮮語の〝토〟は400以上あり、非常に多様かつ豊かに発達しており、繊細かつ緻密な文法的意味を正確に表現することができる。

国語の概念にはその国の文字（国字）も含まれる。

朝鮮人民は自分のすぐれた言語とともに固有の民族文字をもっている。

朝鮮人民が遠い昔から古代文字をつくって使っていたという記録は多く伝えられているが、文献資料や歴史遺物に文字を使った実体が明らかにされているのは吏読文字からである。

吏読とは、漢字の音と意味を借りて朝鮮語を表記するのに使った、朝鮮人民が創製した独特な文字体系のことである。

しかし、吏読文字は封建官吏が文書を作成するのに使った文字であり、漢字を知らない庶民は使うことができなかった。それで、庶民も使える音声を表わす文字として訓民正音が創製された。

訓民正音は、1444年１月に朝鮮封建王朝４代王の世宗が学者たちの協力を得て創製した、非常にすぐれた独特な朝鮮固有の民族文字である。

創製当初、訓民正音は子音文字17字と母音文字11字、合わせて28字からなっていた。

今では朝鮮の国字は40字であり、その形と配列も字母順すなわち「가나다」順に体系化されている。

ㄱ ㄴ ㄷ ㄹ ㅁ ㅂ ㅅ ㅈ ㅊ
ㅋ ㅌ ㅍ ㅎ ㄲ ㄸ ㅃ ㅆ ㅉ ㅇ
ㅏ ㅑ ㅓ ㅕ ㅗ ㅛ ㅜ ㅠ ㅡ ㅣ
ㅐ ㅒ ㅔ ㅖ ㅚ ㅟ ㅢ ㅘ ㅝ ㅙ ㅞ

朝鮮語の字母体系

解放後、朝鮮の文字体系として40字案と24字案が打ち出された。

創製当初、訓民正音は28字であったが、その後４字は使われなくなり24字になった。それは文字体系自体の発展による自然なことであった。ところが、その後補充された硬音の子音文字５字と母音の重文字11字合わせて16字を独自の文字と見なして民族文字体系に含めるとする40字案と、それらを自立的な文字ではなく、ただの図形的な派生と見なして民族文字体系から抜くとする24字案が出てきたのである。

これは原理的にみると、文字は音声を記す記号だという出発的概念からして、文字の属性と本質を音声を記す手段と見なすか、さもなければ文字を単なる図形的な記号と見なすかということから生じた問題であった。

換言すれば、補充された16の文字を相異なる音韻（音声）と見なす場合は、それを必ず独自の文字と見て文字体系に含めなければならず、それを元来使っていた文字の機械的かつ図形的な重なり現象と見なせば、独自の文字と見ることができないので、文字体系にも含まれないということである。

ところが、上述した16の文字はあくまで自立的な音韻を明確に表わし、また、朝鮮の民族文

字は音韻と文字の１対１の対応関係をはっきり表わす文字なので、これらの16字は必ず文字体系に含まれなければならない。

平壌文化語の国字である朝鮮文字体系は単なる図形の集合体ではなく、固有な朝鮮民族の音声表記手段であるので、24字案ではなく40字案に確定したのである。

訓民正音は文字発展の最も発展した類型である字母文字であり、非常にすぐれた特性をもっている。

この文字は人間の音声の最小単位である子音と母音の音素を記すことができるので、朝鮮語の豊富な音声をすべて記すことができ、どの国の言語もほとんど記すことができる。

訓民正音は人間の発音器官の形をまねてつくられているので、その原理が科学的かつ体系的であり、習いやすいうえに書きやすい。

字母数を40字とする問題、分かち書きをはじめ書写規範を改定する問題に至るまですべて定式化することによって、朝鮮の文字体系と書写方式はより科学的なものとして改善、完成された。

6. 国　花

モンラン

国ごとに国花が選定された歴史、国花選定の基準、国花の数はそれぞれ異なる。

国花を一つに定めている国もあれば、複数の花を国花としている国もある。

国花のほかにも郷土を代表する花や都市を象徴する花もある。

このように世界の多くの国が国花を定めた主たる目的は、花によって自分の国と民族を代表し象徴するとともに、人々の文化・情操的水準を高めることにあった。

概して、その国と民族が最も好み愛する花や経済植物が国花とされている。

花卉や花木が国花とされるが、その選定基準は国によって違う。

まず、花の美しさによって国花を選定している。換言すれば、花卉、花木を問わず、花の形や色、香りなどを基準として国花を選定している。

花木を国花とする国もあるが、ほとんどの国が一年草か二年草または多年生の花卉を国花に定めている。

朝鮮の国花はモンラン（オオヤマレンゲ）である。

モンラン（Magnolia　sieboldii）はさまざま

国　花

花

葉

実

割れた実

種子

な特徴をもっている。

朝鮮を中心とする東アジアにのみ分布しているモンランは種子植物の先祖集団であり、地球上に生まれた歴史が最も長い種子植物に属する。

モンラン科の先祖植物は今から約１億年前の中生代白亜紀に出現し、朝鮮でモンラン属は新生代古第３紀から現在まで、氷河時代にも絶滅せずに生き続けてきた。

モンランは観賞的価値が高い。

花の観賞的価値は形、大きさ、色、香りなどによって評価される。

モンランの花は直径が８～10cmであり、普通６枚の花びらと三つの花葉からなっている。大きくて広い白色の花びらがよく調和して優雅で清新な感じを与え、花の中心に濃紅色の雄しべと黄色の雌しべがあって造形学的によく調和しており、かぐわしい香りがする。また、葉は大きくて厚いのでさわやかさと重厚さが感じられ、灰色を帯びた白い幹も力強く感じられる。

実も見栄えがし、色は濃い桃色で非常に美しい。

モンランのこうした特徴は、剛毅で素朴かつ高尚な朝鮮人民の英知に富んだ気概をよく反映している。

国　花

　モンランは単一品種であり、株ごとに花の形、大きさ、色が同じであり、どの地方に植えてもそれは変わらない。寿命は約30年であるが、灌木なので幹が叢生して株は引き続きよく育つ。

　一つの花の開花期間は約１週間、１本の木で花が見られる期間は50～60日である。繁殖法は種子散布、接ぎ木、挿し木などである。

7. 国　樹

国　樹

世界には国樹を正式に定めている国もあるが、多くの国では民族的伝統を考慮して国の代表的な木を選定し、紹介している。

国樹は自国と自民族に対する誇りと自負を抱かせ、生物多様性を保全するうえでも好ましい影響を与える。

一つの樹木が国の気象を象徴する樹木、国樹になるには、民族の精神と息吹、伝統と歴史、人々の情緒と感情が総合的に反映されていなければならない。

朝鮮の国樹は松（Pinus densiflora）である。

松は常緑の針葉高木であり、幹は普通曲がりくねっているが、山林に育つ松は比較的まっすぐである。

朝鮮人民が松を剛毅な民族の気象の象徴としているのは、特に松が一年中緑の色を帯びた葉をつけており、強い生命力をもっているからである。

厳冬に自然界のあらゆる生命体がその生長を調節するが、緑の葉が雪風に耐えてついに春を迎える松の剛毅な姿に、朝鮮民族は自分の意志と気概を見たのであり、松を万難を排して生き抜く長寿の象徴と見なして十長生（長生きを象徴する10種のもの）の一つとしたのである。

松

　こうした意味で、朝鮮人民は絵画や詩の素材として好んで松を使い、服や各種の工芸品に描いたのである。

　８世紀の高名な画家率居（ソルゴ）が皇竜寺の壁に描いた老松はあまりにも生き生きとしていたので、飛んでいた鳥もそれを本物の松と思い、それにとまろうとして壁に突き当たって落ちたという説話もある。

　文学作品においても、松を雪風や霜に耐え抜く象徴的な樹木として描写した。

　壬辰祖国戦争（文禄・慶長の役）の時、有名な義兵長であった四溟堂（サミョンダン）は『青松』と題する詩

の中で、「松は青い　草木の君子。……悲しい時も嬉しい時も変わることなし。冬も夏も常に青い」と高らかに歌い上げた。また、多くの人たちが「雪風の後に松柏の挺節を知る」「われらも青松のごとく変わるまじ」などと、民族の精神や気概を常に青い松にたとえたものである。

松は幹、根、葉、松葉粉、松かさなどすべて利用でき、根元にはマツタケが生え、死んだ根にも茯苓が寄生するなど、経済的に価値のある樹木とされてきた。

松は用途が広い樹木であった。

松は建築用材として広く利用され、松の節や根から得られる松やにの多い木片は小さく割って灯火に使ったり、油をとって誘蛾灯に使った。

松やには殺菌力が強いので、朝鮮膏薬をはじめ高麗薬の材料や防腐剤に使った。

地中の根から流れ落ちた松やにが石化したものを「琥珀」と言い、それを各種の装身具や装飾品、工芸品をつくるのに利用した。

松の葉は湯で煮立てて茶を入れたり、粉にして家畜の飼料として利用したりした。

松の花粉には各種のアミノ酸、酵素、ビタミン、鉱物質などが多く含まれているので、補薬材として使った。

樹齢40年以上の松林にはマツタケが群生す

るが、昔からマツタケは数十種の食用キノコの中で一番とされている。

七宝(チルボ)山、金剛(クムガン)山、陽徳(ヤンドク)などマツタケの主産地はみな花崗岩地帯であり、松林である。

また、枯れて久しい松の根に寄生するキノコである茯苓は補薬材として広く利用されてきた。

8. 国　鳥

オオタカ

国鳥は、その国の人民の英知や気象、感情に似ており、歴史的に親しみを感じるようになった鳥、または固有種が選定されている。したがって、国鳥にはその国の風土や文化、習慣などが反映されているものが多い。

国鳥の選定には国際基準といったものはないが、各国が一定の基準によって定めるのが慣例になっており、次のような基準が設けられている。

・親しみが持て、声が美しいこと
・その国に固有かつ特有であること
・美しく珍しい形をしていること
・伝説や伝統など、その国や民族の歴史的意味が反映されていること
・保護・増殖が必要であること
・その国の権力や民族の気象を象徴していること
・研究が必要であること
・性質が勇猛であること

朝鮮の国鳥はオオタカ(Accipiter gentilis)である。

オオタカは鳥綱ワシタカ目ワシタカ科ハイタカ属に属する。

オオタカは、長くて広い翼と丸みを帯びた長い尾を持つ大型の山林性猛禽である。

うっそうとした森林の中やその周辺、広い低木林などにすみ、小鳥などを捕食する。

国　鳥

朝鮮人の祖先は遠い昔からオオタカを非常に貴重で親しみが持てる鳥として愛し、野性のオオタカを飼いならしてキジなどの鳥の狩猟に利用した。

古朝鮮時代からタカ飼いとオオタカを利用した狩猟が広く行われた。

古朝鮮初期の官名に「鷹加」というものがあったという記録が残っているが、それは法と秩序をつかさどる職務であった。この「鷹」という字はタカを意味するものであり、これは、古朝鮮の人々がタカを飼いならす過程でタカの生理的特性を見極め、それに合う官名をつけていたことを示している。

高句麗でも狩猟にオオタカを大いに利用した。

タカ狩りに関する記録は、高句麗の始祖東明（トンミョン）王の建国説話にも反映されている。

『世宗実録地理志』にある高句麗建国説話には、東明王の父である解慕漱（ヘモス）と川水の神である河伯が技くらべをし、河伯（ハベク）がキジに変身すると、解慕漱はタカに変身して彼を屈服させたという内容がある。

高句麗の古墳壁画にあるタカ狩りの様子を見ると、ほとんどが同じ形式である。

当時、タカ狩りは馬を走らせながらタカを放って獲物を捕らえさせる方法と、馬を使わずに数羽のタカを同時に放って獲物を捕らえさせる方法で行われた。

雄

雌

卵を抱く親鳥

生まれたばかりのオオタカ

高麗の人々も高句麗の狩猟の風習をそのまま受け継ぎ、タカ飼いとオオタカを利用した狩猟を行った。

『高麗史』には、敬孝王が両府（門下部と密直司のこと）の臣下たちを呼び寄せ、「朕が聞いたところによると、汝らはみなタカと犬を飼っているということだが、本当か」と質問したことと、当時多くの宰相や大臣がタカを好んだことが記されている。これは、高麗でも高句麗や渤海（パルヘ）と同様に、人々の生活でタカが大いに利用されたことを示している。

高麗末期には、国王や官僚たちのタカ飼いとタカ狩りに必要なオオタカと、隣国との貿易に必要なタカを確保するための専門機関として「鷹坊」を設置し、運営したと記されている。

高麗でタカ飼いとタカ狩りが盛んに行われたことは、対外貿易でタカが重要な位置を占めていたことからもよく分かる。

945年（恵宗2年）、高麗は晋に、メッキしたタカの鈴20個と、銀微銅でメッキしたタカの鈴20個をほかの物品とともに送り、995年には契丹にも土産品とともにタカを送った。

その後も高麗は、隣接するモンゴルなどの国々との貿易においてタカを重要な輸出品の一つとした。

タカ飼いとタカ狩りは、朝鮮封建王朝時代になって一層盛んになった。

タカ飼いとタカ狩りを担当する「鷹坊」は、

朝鮮封建王朝時代にも初期から存在した。

「鷹坊」には「鷹師」と「鷹人」がいた。

『太宗実録』には、鷹師はタカの訓練、治療に関する専門知識を身につけている人であり、ほかの役は一切免除され、その職は世襲されたということが記されている。また『世宗実録』には、1423年３月、世宗が平安道（ピョンアン）、咸鏡道（ハムギョン）、黄海道（ファンヘ）の監司たちに、コウル（当時の行政区画単位）に所属している「鷹師」たちにタカを捕らえさせるよう指示したという記述があるが、これはこの３道にも「鷹師」がいたことを示している。

「鷹人」は「鷹坊」でタカを馴養する人であり、彼らも一切の役を免除され、王のタカ狩りに付き従ったという。

「鷹人」は主に咸鏡道、平安道、黄海道に居住していた。

当時、鳥の狩猟で主な対象はキジ、ガン、カモ、ウズラ、ツルなどであった。当時もキジは全国各地に棲息し、種蒔き時や秋に野で群れをなして飛び交った。

キジ狩りに多く利用されたのはほかならぬオオタカであった。当時の資料によると、「多少富裕だといわれる朝鮮人はほとんどがタカを飼っていたし、タカを殺すことは強く非難されることと見なされていた」という。

オオタカを描いた符籍

オオタカを描いた歳画

近代にもタカは以前と同じ方法で狩りに利用された。

タカを飼いならして生活に利用する過程でタカの勇猛さを知った朝鮮人民は、美術作品の画題としてだけでなく、歳画や三災符籍（神符）としても広く利用した。

三災符籍は、朝鮮人が毎年元日に家ごとに歳画を描いて貼った民俗画の一つであった。民間では元日に歳画として虎の符籍とともにタカの符籍を壁に貼り付け、それに美しい国土で平和に、幸福に、仲よく暮らしたいという民族の素朴な願いを込めたりした。

9. 国　犬

豊山犬

国　犬

国ごとに、自民族の悠久の歴史、すぐれた気質や能力を象徴する動物がある。

そのような象徴的動物の中には犬もある。

今から数万年前の旧石器時代に人間が最初に飼いならし、生活に大いに利用してきた犬は、今日、多くの国で国家象徴動物に指定されている。

犬は利口な動物である。犬は嗅覚と聴覚が鋭敏で、足が速く、鋭い歯を持っている。また、愛嬌と思いやりがあり、勇猛である。

犬は、猟犬、番犬、軍用犬、警察犬、愛玩犬、家庭犬、競走犬、労働犬など、その利用範囲が日増しに広がっている。

現代文明の急速な発展にともなって、犬は人間の多くの生活領域により広く利用されるようになり、有用な動物としての価値は一層高まっている。そして、多くの国では、自国の気候風土に順化し、自民族の生活に大きく寄与してきた代表的な犬の品種を国犬に定め、その純血種を保存するために努力している。

朝鮮の国犬は豊山（プンサン）犬である。

豊山犬は、遠い昔から朝鮮人民と親しんできた朝鮮特産の犬である。

原産地は両江道（リャンガン）金亨権（キムヒョングォン）郡（以前の豊山郡）一帯であり、豊山犬という名はこの地名に由来する。

豊山犬は、反日義兵部隊が豊山一帯で義兵闘争を展開し始めてから世に広く知られるようになった。

国を奪われた1910年代に、日本帝国主義の朝鮮占領に抗して戦っていた豊山一帯の義兵部隊では、戦闘や見張り、狩猟などに豊山犬を多く利用した。

朝鮮では1956年４月、豊山犬が国家天然記念物として登録された。

豊山犬は、朝鮮北部の山間部と森林地帯に順応した典型的な猟犬品種である。

豊山犬は粘り強く勇敢であり、狩猟能力がほかの犬より格段にすぐれている。

豊山犬は知能が高い。

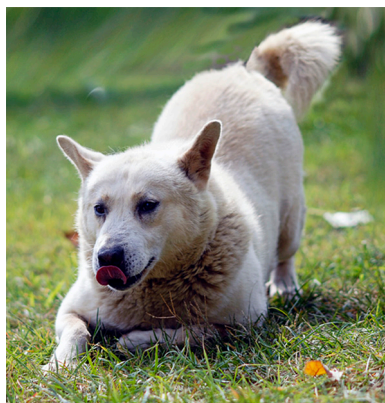
感覚機能と記憶能力がすぐれているので、訓練することによって人間の言葉と行動をある程度理解できるようになる。特に、飼い主の言葉と行動をよく理解し、飼い主の要求にすばやく応じる。

豊山犬は数百キロ離れた所から家に帰ることができる。こうした利口さは人間と一緒に生活する過程でさらに発達する。

豊山犬は、その形態学的特徴に即して猟犬特有の気質を現す体格をしている。

頭は上部が大きくて丸く、体重に対する脳の容

雄

雌

積はほかの犬より大きい。専門家は、それで豊山犬は利口なのだと考えている。

首は短くて太く、中ぐらいの大きさなので慣性モーメントが小さい。したがって方向をすぐ変えることができる。

背筋は水平であるか、後軀が前軀より高く、後脚はまっすぐに伸びている。したがって山岳の傾斜地でも獲物を追って速く走ることができる。

また、口が短いので獲物を咬む力が強い。

豊山犬は体重が20～30kgの中型犬なので、大小すべての獣の狩猟に使うことができる。

しかし、豊山犬は野性的気質が残っているので、小さい時からよくしつけるとともに、狩猟を通じてその気質を十分に発揮できるように訓練する必要がある。

豊山犬はふだんは勝手に行動するように見えるが、一旦狩猟に出たら、互いに歩調を合わせて秩序立った行動をとる。

豊山犬のような猟犬は狩猟を通じてのみ、そ

のすぐれた能力と気質を余すところなく発揮することができる。

２、３頭またはそれ以上が群れをなして獣の足跡をどこまでも追い続け、獲物を見つけたら、それが熊であろうと猪であろうと、ひるむことなく飛び付く。

大きな獲物と出くわした時には、むやみやたらに正面から立ち向かわず、吠えたてながら獲物の後脚に咬みついて引っ張ったり、その周りをぐるぐる回りながら倒す機会をねらう。

豊山犬は狩猟で力を合わせる習性があるので猛獣狩りに使うこともできる。獲物を見つけると、頭の犬が先頭を切り、それに続いてほかの犬が矢のように突っ走る。

犬たちは猛獣の周りで吠えたてたり、すきを見

て脚や尾に咬みついて引っ張ったりして猛獣をおろおろさせる。豊山犬は猛獣の鳴き声や気勢にもおじけず、姿勢を崩すことなく敵を凝視し、すきを見せずに攻撃を続け、絶対に退かない。

　戦って深い傷を負ったり疲れ果てた時も、しっぽを巻いて逃げたり降参せず執拗に敵に飛びかかる。

　１頭の犬が敵の急所に咬みついたら、ほかの犬たちも一斉に飛びかかって肉や皮を咬みちぎる。血を見た犬たちはますます興奮し、容赦なく肉を食いちぎって猛獣を倒してしまう。

　豊山犬は体の大きさに比べて動作が非常に敏捷で覇気がある。大きな獣と戦う時、脚の間や腹の下をくぐり抜け、敵の喉笛に食らいついて倒す特技をもっている。また、敵と戦う時は前脚も巧みに使う。飼い主と遊ぶ時も、狩猟の時と同様に姿勢を不断に変えながら敏活に行動する。

10. 国　酒

国酒は、その国の自然地理的条件や民族的風習、酒製造の歴史などが反映されている酒である。

人々は遠い昔からさまざまな原料、製法などによっていろいろな酒をつくってきた。その過程で、それぞれの地方を代表する名酒や国を代表する国酒が生まれた。

朝鮮人民の民族的伝統の中には酒の歴史と文化もある。

朝鮮人の祖先が旧石器時代に発見した酒は、自然作用で醸造された果実酒であった。

新石器時代には、ヤマナシ、ヤマブドウ、サルナシなどの果実発酵酒と穀物発酵酒をつくり始めた。

三国時代に朝鮮の酒は周辺諸国にも広く知られるようになり、醸造技術は隣国にまで広まった。

百済のインボンは３世紀末～４世紀初に日本へ渡り、新しい醸造技術を広めた。それで、彼は今日に至っても日本の酒の「神」として崇められている。

高麗時代には酒の種類が増え、醸造技術が急速に発達した。

高麗時代、酒の主原料は白米とこうじであった。また、高麗医学発展の成果に基づき、高麗人参、朝鮮松の実、五加皮などの高麗薬材の薬理的

効果を利用した高麗薬酒醸造技術が発達した。

朝鮮封建王朝時代に、酒の醸造技術はそれまでの伝統と新しい方法が総合的に体系化されてさらに発達した。

まず、原料の加工方法と発酵方法、酒の保管と貯蔵において伝統的な方法が総合的に体系化され、さまざまな醸造方法が開発された。

朝鮮の国酒はアルコール分25％の平壌（ピョンヤン）焼酒である。

朝鮮では人民が好む酒、大衆化された酒である平壌焼酒が国酒となったのである。

平壌焼酒の主原料はトウモロコシと白米である。

平壌焼酒の商標には、透明な瓶と調和した白と灰色の地に、昔の平壌の象徴である大同門を背景に祖先たちが酒を醸している様子が描かれており、「朝鮮名酒」という赤い判が押されている。

平壌焼酒は、朝鮮の最高科学技術賞である2・16科学技術賞と、国内最優秀製品に与えられる12月15日品質メダルを授与された。

平壌焼酒の特長はきれいでまろやかなうえに、こくがあり、さわやかな感じがすることである。

朝鮮の国家象徴

編　　　集：金英鮮
翻　　　訳：徐正次、李成洛
レイアウト：方成姫、金正蓮
発　行　所：朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
発　　　行：チュチェ108(2019)年９月

ㄱ-198252

E-mail:flph@star-co.net.kp
http://www.korean-books.com.kp